



## 全国学力テストは中止しかない

### 平均点競争から考える

8月25日、今年度の全国学力テストの結果が公表されました。愛知県の小学校の国語の成績が悪かったことを受けて、県教委義務教育課は「特に小学校の国語について重く受け止め、考えを書かせたり漢字の読み書きをさせたりする授業改善策を示していく」としました。

全国で、結果の公表や事前のテスト対策が広がる中、愛知県もその渦に巻き込まれてしまつてはいないかと懸念されています。全国学力テストの問題点について、みなさんとも考えてみたいと思います。

## 全国に広がるテスト体制

新学期が始まってテスト対象となる小6は、四月下旬のテスト実施日まで前年度の復習をするのが年中行事になった。「配られた真新しい教科書が、学力テストの翌日まで一切使われず、机の中で眠ったままに…」(中日新聞8・26)というのは、沖縄県で行われているテスト対策の状況です。この結果、全国平均を上回る成績となり、小学校の順位が上がったそうです。

香川県では、全国学力テストの結果を受けて、「白紙解答を減らせ」「自主勉強を奨励せよ」ということが学校に押しつけられています。それに加え、県独自の学習状況調査の実施、土曜授業の実施や長期休業の短縮、授業の進め方のマニュアル化が行われ、若手の教員は、授業の始めに子どもに学習の目当てを唱えさせたか、話し合いを織り込んだかなど

がチェックされています。また、「速く・簡単に・正確に」答えを出すこと(「は・か・せ」と言われる)が重視されています。

(表1) わずかな全国平均との差 (平均正答数)

<調査区分>	<愛知県>	<全国>
国語A (14問中)	9.3問	9.8問
国語B (9問中)	5.7問	5.9問
算数A (16問中)	11.7問	12.0問
算数B (13問中)	5.9問	5.9問
理科 (24問中)	14.2問	14.6問

(文科省発表の資料より)

ここでは、沖縄県と香川県の例をあげましたが、全国で、全国学力テストの事前対策が広がるだけでなく、普段の授業がテスト向けの画一化されたものとなりつつあるのです。小学校の段階から「テスト体制」にがんじがらめにされた子どもたちの悲鳴が聞こえてくるかのようです。

## 高度な「技術力」を求める

全国学力テストの実施要領では、「出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則」としています。しかし、「活用」を重視するため、子どもたちにとっては、授業で習ったことのない難しい問題が多数出されています。(表2参照)

B問題(主として「活用」に関する問題)は、実施要領では「知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価する力などを把握する」としています。学習指導要領の「活用力」を逸脱した内容となっているのです。

その結果、B問題には、子どもの生活実態に合わない場面設定の長文を読み解き、さまざまな条件に合わせて記述で解答する、といった難解な問題がいくつも含まれています(裏面資料)。さらに、このような難問題を短時間で解くことも求められています。生活に役立つ「活用力」ではなく、高度な「技術力」を求めるものとなっているのです。

(表2) 極めて難しい問題がいくつもの

<調査区分>	<正答率の低い問題数>
国語A (14問中)	20%台…1問
国語B (9問中)	30%台…1問 40%台…1問
算数B (13問中)	10%台…2問 20%台…2問 30%台…1問 40%台…2問
理科 (24問中)	20%台…1問 30%台…1問 40%台…2問

## 一部のエリート育成

文科省が、きわめて難しい問題を使って調査を行い、都道府県別の成績を公表するのは、なぜでしょうか。それは、財界からの要請である「グローバル企業で活躍する一握りのエリート育成」に應えるための手段にしようとしていることが考えられます。「活用」に偏った難しい問題を出し、都道府県・市町村、そして学校ごとの競争をおおることで、一部のエリート育成をねらっていると考えられます。しかし、これは「すべての子どもに教育に責任を持つ」という義務教育の役割を放棄するという危険性を含んでいます。

このように、全国学力テストは、多くの子どもや学校を苦しめ、過去問題の練習等のテスト対策で学びをゆがめるといった、深刻な問題を抱えた調査であるということが、いよいよ鮮明になってきました。今後は、県教委が各学校にテスト対策を押しつけないようにすること、文科省に対して全国学力テストを中止するよう取り組みを強めていくことが求められています。

# 大人でも 難しい問題...

(H27 小学国語B問題より)

1

東小学校の新聞委員会の木村さんたちは、月ごとの学校の様子を新聞にまとめて地域の方々に伝え  
ています。木村さんたちは、次の「ふれあい新聞（六月号）」を書いていきます。これをよく読んで、あと  
の問いに答えましょう。

【ふれあい新聞（六月号）】

## ふれあい

6月号  
2015年(平成27年)  
5月29日  
東小学校  
新聞委員会

### 交流で広がる 心の輪

五月十二日(火)、東小学校において、  
地いきのおじいさんやおばあさんとふれ  
あう交流会を開きました。  
交流会では、  
六年生の進行  
のもと、「お手  
玉」「けん玉」  
「あやとり」な  
どのコーナー  
に分かれて、  
いっしょに遊  
びました。  
おじいさん  
やおばあさん  
から、遊び方  
や上手にでき  
るコツを教え  
ていただきました。  
そのほ  
かにもお話をしたり、かた  
をもんだりして、交流を  
深めることができました。  
あやとりのコーナーに参  
加した一年生の西島あや  
のさんは、「ほうき形の形  
作り方をやさしく教えて  
もらってうれしかった。」と  
喜びました。



あやとりでほうきをつくったよ

ここにこしていました。  
また、参加された中田  
とよさんは、  
ア

心の輪が広がった一日  
でした。(木村・三上)

### 子どもの

交流会に参加し  
ださった方々五十  
に、子どものころ  
だった遊びをたず  
ねたところ、左のよう  
果になりました。

子どものころ  
好きだった遊び

- ・おにごっこ
- ・かくれんぼ

地いきの方々とふれあう  
行事や活動の予定

- 7月11日(土) 東小バザー
- 9月26日(土) 東小運動会
- 10月16日(金) ふれあい読書会
- 11月21日(土) 東小祭り

行事の日が近くなりま  
したら、ちらしをお配り  
します。  
地いきのみなさん、ぜひ  
ご参加ください。

国B-1

三 「ふれあい新聞（六月号）」の  
ア  
の中には、あやとりのコーナーに参加した中田とよさん  
の感想をのせることにしました。次の「中田とよさんへのインタビューの様子」の内容をまとめて  
書きます。あとの条件に合わせて書きましょう。

【中田とよさんへのインタビューの様子】

〈話した内容〉

あやとりのコーナーに参加してよかったわ。  
それはね、一年生のみんなに様々な形を教えてあ  
げたら喜んでくれたからなの。  
みなさんも準備が大変だったことでしょうね。  
町で会ったときにはいつでも声をかけてください。  
今度の案内も楽しみにして待っていますね。



中田とよさん

〈表情や声の調子〉

- ・目を細めている
- ・明るい声

小国B-4

〈条件〉

- \* 部についての理由が分かる言葉を、〈話した内容〉の中から「」を使って取り出し、  
その言葉と〈表情や声の調子〉の中の内容を合わせて、一文で書くこと。
- 書き出しに続けて、四十字以上、七十字以内で書くこと。なお、書き出しの言葉は字数  
にふくむ。